

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



多古町・匝瑳市の城郭保存活用の取り組み

地元で開催されたシンポジウムは盛況でした

千葉県東総地域(太平洋岸)に、多古町・匝瑳市という自治体があり、そこでは住民主体の城郭保存活用保存会と言う民間の団体があります。目的は、「山城」を復興してそれらを活用しようと言うものです。

城と言えば天守閣が人気ですが、国内に江戸時代から現存するのは、12箇所に過ぎません。他に天守閣を復元した城がありますが、それも少数です。ただし、全国には「城跡」だけの「山城」でも人気が高いものが少なからずあり、毎年「お城 EXPO」と言うイベントが横浜などで盛大に開かれています。



多古町城郭保存活用保存会は、町内に多数ある山城の「御城印」を順次作成し、発行種類数で「日本一の御城印の町」を達成しています。上記の「お城 EXPO」ではすでに高い評価を得ていますが、併せて、やぶに覆われた山城への路を開く、日本初の「お城開き」を実施し、山城ファンにも共感を呼び、全国から参加者が集まる盛況を見せたというものです。その企画には、「山城ガールむつみ」と言う有力な協力者も得た企画で、その仕掛けに大いに興味を持ちました。

糸島高校郷土博物館の意義

日本唯一の高校博物館の存在と現在の活動

糸島地域は、魏志倭人伝にも記されている伊都国の地域であり、江戸時代から学問的に遺跡が発掘され、国宝レベルの遺物が発見されてきました。地元の糸島高校は120年の伝統を誇りますが、戦前から、校内に「郷土室」を作り、考古学的資料を収集、保管してきました。戦後には、本格的な整理が進め、文部省にも認められ、「郷土博物館」に指定されています。現在まで続く高校博物館は、全国で唯一であるそうです。昭和40年、日本最大銅鏡が5枚も出土した平原遺跡の発掘作業には、糸島高校出身の原田大六団長とともに、歴史部員も参加し、伊都国王墓に比定に貢献しています。

その後の時代に合わせ、糸島高校歴史部は文書類の整理をした資料作成にも注力し、日本考古学協会主催の「高校生ポスターセッション」では、近年2度も全国最優秀賞を受ける偉業を示し、それら作品も含めて、「糸島高校郷土博物館」に展示され、温故知新の活動を展開している状況を見学しました。



◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
春季の第51期生を募集開始

インターン体験記①矢野 拓

「町田市が他の市と比較して誇れるものは何だと思いませんか」。吉田議員の問いかけに対して多くを語れないということに恥ずかしさを覚えました。僕自身、玉川学園のハチミツは有名だと自負していましたが存じない方々もいらっしやり、衝撃でした。



インターンシップ初日の今日は、吉田議員の自家用車(宣伝カー)に体を揺られながら、町田市内の観光地を5か所ほど訪れました。普段宣伝カーに乗ることもないので貴重な機会であったとともに市民からの視線も違います。身が引き締まる思いでした。商業施設と一体になった公園と自然観察を目的とした公園「薬師寺池公園」を訪れ「公園の有効活用」などについて学びました。その他にリス園や武相荘など複数か所を巡り感じたことは、「集客の大変さ」とリス園においては「整備レベルが相対的に低いまま放置された観光施設」と、そこで働く障がい者の人たちの「就労賃金の低さ」です。コロナ渦と高齢化社会のダブルパンチによって集客の困難さを極めていると思いますが、最近では、訪日外国人も増加傾向にあり、それらの観光地では外国人の姿も見られました。

入場料は高いが歴史的観光名所、入場料は低いが集客に力を入れる観光名所、いろんな形態のスタイルを学ぶいい機会となりました。

玉川大学4年生 矢野 拓(第51期生)

インターン体験記⑨岡本 麻鈴

私は今回10月22日・23日に開催された「第24回ゆうゆう版画美術館まつり」の22日に参加しました。展示の中には、私が通う玉川大学芸術学部1年生による地域創生プロジェクトの皆さんも参加しており、お客さん側として参加したのはなんだか不思議な気分でしたが、同級生が展示を通してどんな研究をしているのか制作しているのかを知ることができ、とてもいい刺激をもらいました。

催し物も素敵なものばかりで、特に版画づくり体験は大人だけでなく子供たちも楽しんでいて、全体的にとっても地域に寄り添うイベントだと感じました。



玉川大学1年生 岡本 麻鈴(第49期生継続)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年10月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。